

十月十七日

朝五時起床、夜明けの空をしばらく眺める。六時過再び眠る。馬場照道さんに電話、仏教伝導協会の件依頼する。竜谷大学の上山学長にもフィンランドとの事、報告しなければならぬ。二〇日に照道さんと会う事になった。十三時研究室。十五時製図室。十八時妙高寺会館打合せ。二十一時世田谷村に戻る。

十月十八日

道路公団総裁藤井VS石原伸晃国土交通省大臣との問題が話題になっている。新聞紙上で読むしかないが、石原大臣とは役者の格が違うな。藤井総裁は世論を見方にしようとはしていない。官と法を背中に負おうとしている。世論は当然移ろい易い。一時的には小泉流のパフォーマンスは石原を介して成功し、藤井は総裁の座を降りるだろうが、藤井総裁も又最後に政治的パフォーマンスを繰り広げたのだ。どちらのそれが上であつたか、誰の眼にも歴然としている。総選挙にもこれは影響するな。官僚の負の部分の殆どを持っているにしても、藤井はとにかく、官の一身を賭けてのパフォーマンスであつた。石原にはそれができない。最近の政治家は私如きから見ても確かに軽い。軽妙劇場国家だな。難波和彦さんのH・Pをのぞいたら、どうやら表参道を何回も歩いて学生の演習をしているようで、オカシかった。私もゾロゾロ、フィンランドの連中連れて歩いていたらからな。その時の成果が室

内の目ざわりデザインの来月号になるのだが、難波さんにも、彼の学生諸君にも是非共読んで貰いたい。しかし、他人事ではなく、他人の日記をのぞくのはある種の快樂があるな。この素は一体何か。ある種の私的劇場をつくり出しているんだな。軽妙劇場にならぬようにしなくては恥をさらす事だけに終わる可能性が大だ。昼食は大ざる。甲州屋が閉店して別のソバ屋へ。味が違うのでとまどう。味は魔者だ。十五時前指扇の現場へ。ゆっくりではあるが現場は進んでいる。夕刻、現場から良い日没の光をみる。

十月十九日

完全休養。本も読まずに一日中寝た。これでは休養じゃないな療養だ。二階に大きなソファが一週間前から入っている。小田急デパートで買ったもの。うすいグリーンの、いかにもな奴だ。何がいかにものかと言えば、いかにもデパートの家具売場で売っているようなという、いかにもな奴だ。最初は気にならないでいたのだが、フット何か異和感を感じたのをきっかけに、気になって仕方がない。ここ世田谷村にはこういうのが似合わない、と感じさせる何者かがある。原宿を歩いている時の異和感に通じる。このソファはムラタのカサブランカシリーズ中、カデンザと呼ばれる、マア中級ブランド商品なのだ。何故カサブランカなのだろう。ボギーが空港の霧に消えた憂愁のカサブランカなのか。あの映画に出てきたBarのインテリアに置かれていた風のものなのか。ここは緑が多いので、もともとが南国風である。カサブランカの地理的イメージは決して似合わない。ブランド家具の大半はデパートの家具売場に陳列されている時に一番そのデザインの力を発揮する。そのデザインの差異が視えてくる。つまり、隣にチョッと違うデザインの商品が並べてあって、初めて価値が

視えてくるのではないか。しかし、とどのつまり、それがこの空間に似合わないと感じている私が居るって事だ。

日本シリーズ、阪神連敗。ピッチャーが投げ、打者が棒を振りまわして、それをたたくという、いたくシンプルなスポーツだが、それなりに微妙なものなんだ。王監督指揮下ダイエーホークスの選手達は勝ちたいと願っていて、星野監督のタイガースには、それが感じられぬ。セリーグ優勝で目的を達してしまった風がある。セリーグとパリーグの人気の落差によって日本の野球は明らかに滅びてゆくね。大リーグに選手はどんどん流出するし、残っている選手は明らかに二流という事を、誰もが知るようなシステムへと移行しているのだから。夜、食事は「むらさき」で焼肉。他はまずまずであったが、キムチは塩からくてまずかった。食後、すぐ寝てしまう。今日は寝る人だったな。